

入間市文化創造アトリエ・アミーゴ

入間市仏子766

もと所沢織物組合の仏子模範工場、埼玉県繊維工業試験場を経て、現在は文化拠点として地域のひとびとをつないでいます。大正生まれの建築が、趣を残しつつ現代的に生まれ変わりました。



ここに注目！ 3つのポイント



①ホール
広いホールは、ダンスや演奏など様々な文化活動に使われます。こんな素敵なホールだったら何をしてもわくわくしますね！

落ち葉がたまと掃除が大変という独特の悩みも…

②赤いのこぎり屋根
北側の安定した光を多く取り込みます。色味を大切にしている織物業には欠かせない屋根。



③テラス
入間川を臨むテラスは、アメリカンな雰囲気。落ち着く空間を演出します。



他にも…



当時のままの、標識。



ここが繊維工場だったことを、確かに感じさせます。



アーチを描いた窓もおもしろい！建築家の方が来られると、こういったところに特に注目されるそうです。なかなかマニアック…



多目的室

天井もほとんどそのまま残っており、いい色をしています。ちょうど、施設を利用する団体抽選の準備がされていました。激戦必至！！

敷地に彫られた星形の模様。

中には繊維工場時代の機械部品が埋まっており、当時のものを少しでも現代に活かしたいという思いが伝わってくるようです。



入口の前に並べられたイス。

並びのズレを思わず直したくなってしまうのですが、じつはこれ、地面と一体化したアート作品。

のこぎり屋根の明るい部屋には、織物を作るための機械が置いてあります。

写真からもわかるように、けっこう大きいです。当時、多くの人々がここで働いていたことがうかがえます。

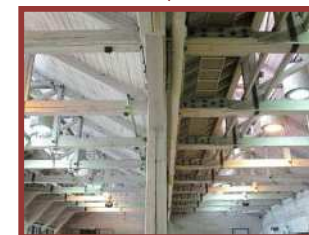


取っ手のついたテーブル!? 扉をリサイクルして作られているそう。

いろいろな角度から、のこぎり屋根。



中から。



見る角度によって、何を強く感じるかが違います。それは、のこぎりの形であったり、屋根の色、中に差し込む光など... そうやって見てみると面白いですね!

2015年9月 訪問
埼玉モダンたてもの学生レポーター
千葉大学文学部 黒田 翔